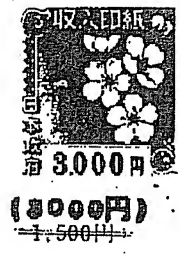


公開実用 昭和54—1869



適
簡

実用新案登録願

昭和52年6月8日

特許庁長官 片山石郎 殿

1. 考案の名称 クレーン用遠隔操作装置

2. 考案者

実用新案登録出願人と同じ

3. 実用新案登録出願人

北海道小樽市奥沢1丁目25番1号
東 前 望 堂

4. 代理人 〒104

東京都中央区銀座2丁目2番19号 末広ビル
電話 561-3306・3595・6308
千野事務所内

(7576) 辦理士 山口 茂
(7846) 弁理士 村 井 常 男

10字綴
10字綴入

5. 添付書類の目録

- | | |
|-------------|----|
| (1) 明細書 | 1通 |
| (2) 図面 | 1通 |
| (3) 委任状 | 1通 |
| (4) 願書副本 | 1通 |
| (5) 出願審査請求書 | 1通 |

52 073637

方式
審査



山田 54-1869

明 細 書

1. 考案の名称 クレーン用遠隔操作フック

2. 実用新案登録請求の範囲

フック(1)と該フック(1)に引掛ける被吊持物体の掛止ワイヤー(2)の一端とを止ピン(3)及び(4)により夫々枢着した主体(5)を備え、該主体(5)には前記フック(1)の先端に係止する止環(6)を設け、この止環(6)に遠隔操作用ロープ(7)を接続して成るクレーン用遠隔操作フック。

3. 考案の詳細な説明

この考案はクレーンに用いる遠隔操作フックに関するものである。

従来、海中に沈設した魚礁等は、クレーンに設けたフックにワイヤーをどで吊下した魚礁本体を沈下して海底に設置した後、前記ワイヤーの取外しのため潜水夫によつて作業を行つていた。又海中に陥らず陸上深部或いは高所等クレーン、起重機操作員以外にワイヤーの取外しのため作業員が

(1)

54-1869

必要であることは言うまでもない。

この考案の目的は前記作業を簡略化し、作業人員を削減し、経済的に有利でしかも安全性を高め能率向上が可能をフックを提供することにある。

しかしてこの考案はフック(1)と該フック(1)に引掛ける被吊持物体の掛止ワイヤー(2)の一端とを止ビン(3)及び(4)により夫々枢着した主体(5)を備え、該主体(5)には前記フック(1)の先端に係止する止環(6)を設け、この止環(6)に遠隔操作用ロープ(7)を巻繞して成るクレーン用遠隔操作フックの構造を要旨とするものである。尚図中(8)は主体(5)にビン(3)で取付けた吊環、例はロープ(7)の案内片で挿通孔(11)を有し、前記吊環(8)に固定してある。

この考案は叙上記述した構造であるから、被吊持物体に掛止ワイヤー(2)をかけ、これをフック(1)に引掛け、更に止環(6)をフック(1)の先に掛止した状態で被吊持物体を例えば無底に沈める。そして海上からロープ(7)を引くと止環(6)はフック(1)より

外れるので、フック(1)は第1図鎖線で示したように止ピン(3)を支点に回動し、掛止ワイヤー(2)は外れるのである。ゆえに吊持物体とフック(1)とは確実に分離し、従来のように作業員が一々外す手数を省くことができ、経費を削減し安全で実益のある考案である。

4 図面の簡単な説明

図面はこの考案に係るクレーン用遠隔操作フックの一実施例を示したもので、第1図は正面図、第2図は側面図である。

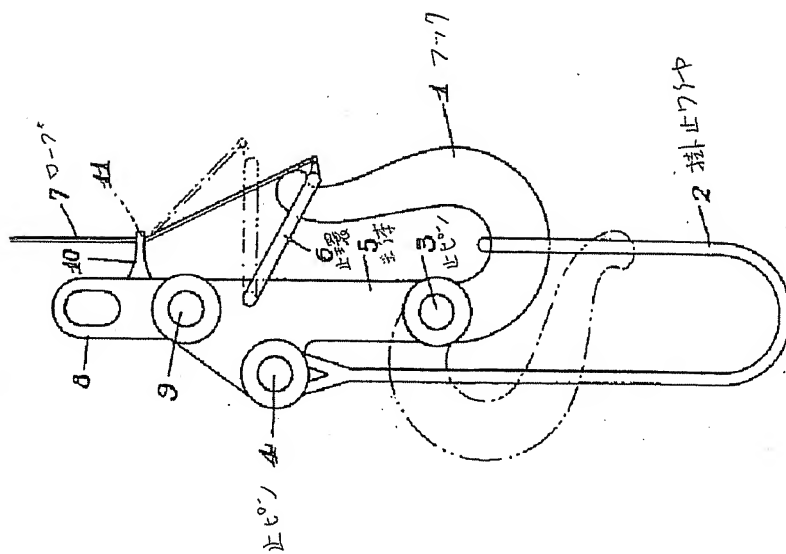
(1)～フック、(2)～掛止ワイヤー、(3)(4)～止ピン、(5)～主体、(6)～止環、(7)～ロープ。

実用新案登録出願人の氏名

小 川 正 造

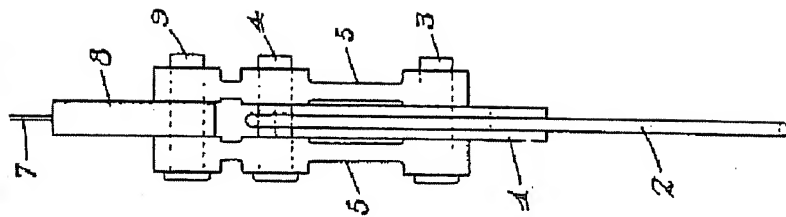
代理人の氏名 村 井 常 男

第 1 図



1869
186973

第 2 図



実用新案登録出願人の氏名 小 川 正 造